

SQUARE



No. 108

習志野市国際交流協会会報
スクウェア 第108号
2015(平成27)年1月1日

発行 習志野市国際交流協会
千葉県習志野市津田沼 5-12-12
サンロード津田沼 6F 〒275-0016
Tel&Fax 047-452-2650
http://www.nia08.com/
(Email)niasquare@m.jcnnet.jp

主な内容 CONTENTS

- 訃報——名誉顧問の林安次様をご逝去されました
- 市制施行 60 周年記念 市政功労者表彰を受けました
- 鷺っ子まつりと実花小 40 周年記念文化祭に参加しました

詳しい記事、およびカラー版が NIA ホームページからご覧になれます

市制施行 60 周年記念 市政功労者表彰を受けました

このたび習志野市国際交流協会が、市制施行 60 周年記念市政功労者表彰の一部門である「市民協働功労表彰」を受けました。

この表彰は、多年にわたり市政の発展に尽力し、その功績が特に顕著であると認められる個人と団体に与えられるものです。

表彰式は、平成 26 年 11 月 1 日(土)に習志野文化ホールにおいて行われ、個人 713 名、団体 65 団体の方々がこの栄誉に浴しました。当協会から崎山会長が出席しました。

当協会は、1986 年 4 月 26 日、習志野市とアメリカ合衆国アラバマ州タスカルーサ市が姉妹都市提携をしたことを契機に、翌年の

1987 年 7 月 18 日に設立されました。以来多くのボランティアの方々に支えられながら、習志野市における国際交流の推進と国際化に寄与することを目的に活動してきました。内外における国際交流、国際理解、国際支援、それに伴う情報の収集と提供、日本語ボランティアの育成など、その活動は多岐にわたります。

このような地道な活動を毎年継続していることに加えて、今年度は市内 4 つの高等学校の生徒をタスカルーサ市に派遣するなど、新たな事業を積極的に展開しています。

協会の活動は決して華やかでも大袈裟なものでもありません。むしろ国際交流という役割に根気よく



習志野文化ホールでの記念式典

取り組んでいる地道な活動です。今回の表彰は、ボランティアとして長く続けてきたことが評価されたものと思いますが、一方で実際の活動ではボランティア自身が励まされ、学んでいます。それが今日まで長く活動を続けてこられた原動力だと思います。

市政功労者表彰は、ボランティア活動に従事してきた者にとって至上的名誉です。今回の表彰を、これまでの活動に尽力いただいた関係者の皆様とともに喜びたいと思います。

(報告：事務局長 斉藤富男)

ふれあい祭開催のお知らせ

習志野市民の皆さんと在住外国人の皆さんとの楽しいお祭りを開催します。谷津干潟公園の自然を満喫しながら、日本と世界の正月風景に触れてみませんか。ステージでは民族音楽はじめ世界の踊りなども行います。

日時 平成 27 年 1 月 17 日(土) 10 時～15 時

会場 谷津干潟自然観察センター

- 内容
- ・ステージ(世界の音楽、踊り、武術等)
 - ・外国文化との体験交流コーナー
 - ・日本語学習支援紹介コーナー
 - ・姉妹都市交流コーナー
 - ・国際交流協会活動紹介コーナー
- 参加費 無料

文化講演会開催のお知らせ

日時 平成 27 年 2 月 28 日(土) 13 時～16 時

会場 千葉工業大学 津田沼キャンパス
2 号館 3 階 大教室

入場 無料

第 1 部 国際宇宙ステーションからの流星観測プロジェクト『メテオ』

～ロケット打上げ失敗から再打上げに向けて～

講師 千葉工大惑星探査研究センター
上席研究員 荒井朋子氏

第 2 部 伝説のウイスキーブレンダー

～日本ウイスキー 世界への道～

講師 サントリー株式会社
名誉チーフブレンダー 輿水精一氏

日本という「あたりまえ」から離れて 分かったこと…マルタでの一ヶ月

渡邊小百合 (NI-Youth)

私は昨年8月、イタリア南部に位置するマルタ共和国に1ヶ月間の短期語学留学に行ってきました。

マルタを選んだ理由は、マルタはアメリカ、イギリス、カナダなどと比べると費用が格段に安いこと、メジャーどころではないマルタは日本人がそんなに多くないこと、さらにヨーロッパ随一の治安の良さです。

私は様々な国の人々と友達になり、英語も沢山話せた希望通りの1ヶ月を過ごすことができました。

私が英語に関して一番苦労したのは、友達になった様々な国の人々が話す訛りの強い英語でした。トルコ、スロヴァキア、カザフスタン等、約15カ国の国の出身の友達でしたが、各国の訛りが強烈だったので、しかし、共通に理解可能な言語は英語しかありません。ジェスチャーを使ったり絵を書いたり、互いに様々な工夫をしたことで、英語力だけでなくコミュニケーション力が格段に上がりました。この経験を通して発音や文法よりも、より「伝わる英語」が話せることの大切さを学ぶことができました。

私のマルタ生活は、実は到着して2日で携帯を盗まれるという最悪な出来事で始まりました。日本人の友達はおらず、家族、友達、和食、日本語…そして携帯と、ほとんど全ての「あたりまえ」から離れて、今までと同じなのは「自分自身」だけという状況でした。マルタでは買い物一つするにも日本の倍くらい時間がかかってしまうし、道は迷路のようでどこに行くにも現地人に道を尋ねました。携帯がなくなった際は、同居のドイツ人が夜遅くまで一緒に探してくれました。この1ヶ月で



語学学校の友人たちと

夏のヨーロッパ人旅。 バックパッカーに必要なのは 度胸、根性、判断力

貫 ひろか (NI-Youth)

私は昨年夏、バックパッカーとして3週間、ヨーロッパ10カ国15都市をリュック一つで旅してきました。初めて訪れるヨーロッパ。行きの飛行機の中では、すでにワクワクが止まりませんでした。

最初に着いたのはチェコ共和国のプラハでした。芸術の街といわれるだけあり、とても美しい街並みが続いていました。到着してすぐにスクールに降られてしまったとき、あるお店の親切なおじさんが「寒いから私の店で雨宿りしなさい」と言ってくれたり、電車の

困ることがある度に沢山の人の優しさに触れ、今まであたりまえにしてもらっていたことがいかにありがたいことなのかが分かりました。

乗馬がとりもつタスカルーサでの 交流

材木谷 友里 (NI-Youth)

私は昨年夏、アメリカのタスカルーサ市に2014年習志野市青少年海外派遣団の一員として行きました。

私は乗馬を趣味としています。そしてタスカルーサ市青少年訪問団が6月に習志野市を訪問した際、団員の女子の一人メアリーが同じように乗馬を趣味としていることを知りました。メアリーとは富士吉田青年の家での合宿でも馬について語り合い、素晴らしい、充実した時間を過ごしました。実はこのことが縁となり、私がタスカルーサ市を訪問した際の12日間をメアリーの家にホームステイすることになったのです。

この12日間は毎日が刺激的で、視野がみるみるうちに広がっていくように感じました。ぎこちないながらも英語で好きな馬について語り合えたのもとても楽しい出来事でした。現地の乗馬クラブを見学したときは素晴らしい環境に大いに驚きました。アメリカは日本に比べて乗馬に適した環境がそろっているのだなと思いました。共通の趣味を持つ友達を海外で作ることができたことは、私にとって大きな誇りになりました。

この留学はいうまでもなく、私にとって大きな経験

になりました。馬を見ただけでなく、毎日のように食べたメキシカンフードや、教会やミュージカルへ行ったこと、湖に突き落とされたこと(笑)は一生の思い出です。また機会があれば、この地を絶対に訪れたいと思っています。



現地の乗馬クラブ

切符の買い方もわからずあたふたしていると、それに気づいた通りすがりの人がわざわざお金を出して切符を買ってくれたり、本当に素敵な出会いをしました。

もちろん行く先々で良い経験をしたというわけではなく、常に危険とハプニングとの隣り合わせでした。また3週間の旅のスケジュールはハードで、時差ボケも治らないまま常に移動だったので、疲れが抜けませんでした。国や地域によっては真冬並みに寒い時もあり、事前の下調べの必要性を感じました。

それでも各国の名所や世界遺産を歩き回り、同じヨーロッパでも国によって全く異なる文化や習慣があるなど多くのことを学び、もう二度と経験できないような最高の旅ができました。女の子だから海外で一人は危険？ いいえ、そんなことはありません。度胸と根性と判断力さえあれば誰でもバックパッカーになれます！

